

名前 西川 太一郎

経歴

昭和 17 年 荒川区生まれ

早稲田大学卒業・学術博士

昭和 52 年 東京都議会議員に当選 以降 4 期 16 年

平成 5 年初出馬で衆議院議員に当選 3 期連続当選

この間に、防衛政務次官、教育改革国民会議国会議員代表

経済産業大臣政務官、経済産業副大臣を歴任

平成 16 年 11 月 荒川区長に就任

平成 28 年 11 月 四選

平成 23 年 5 月 特別区長会会長に就任

(令和元年 5 月まで 4 期 8 年)



基本的な考え方

区の目指すべき将来

幸福実感都市 あらかわ

区の現状認識

区長就任以来、「区政は区民を幸せにするシステムである」との区のドメイン（自業領域）を掲げ、区民の皆様の幸福の実現に向け、福祉・健康、災害に強い街づくり、子育て・教育、産業振興、文化振興、環境等、区政の各分野で積極的に施策を実施し、この16年間で1,800を超える新規・充実事業を実施してまいりました。こうした取り組みを継続して行い、子育てしやすい街としての評価が定着した事等により、区の人口は、区長就任時と比べ、28,000人増の21万7千人となるなど、笑顔溢れる活気ある街になったものと考えています。

区の解決したい課題

新型コロナウイルス感染症により、区民の皆様の健康や暮らしに大きな影響を受け、社会のシステムそのものも変化している中で、これまで以上に創意工夫の下で区民の皆様に寄り添った区政を実現していきたいと考えています。引き続き、区政の重要課題である住み慣れた地域で健康に暮らしていただくための福祉・健康施策、水害や震災等の災害に強い街づくり、時代を担う子ども達を健やかに育む子育て教育、地域の活力の源である産業振興、豊かな心を醸成する文化振興、未来への責任としての環境対策等に全力で取り組んでまいります。

優先政策

区民の皆様に安全を

期 間：未回答
数値目標：未回答
予 算：未回答

政策手段

新型コロナウイルス対策を徹底的に実施します。これまでの区独自のPCR検査、医療従事者や区内の病院、診療所への支援、病院のベッド確保などの取り組みをさせます

水害、震災にも負けない街をつくれます。民間施設などと協定を結び、3密にならない避難所を目指します。深井戸を活用した延焼防止対策に取り組みます。道路の拡張や建て替え促進などにより、火災に強い街作りを進めます

優先政策

区民の皆様に安心を

期 間：未回答
数値目標：未回答
予 算：未回答

政策手段

高齢者の暮らしをきめ細かくサポートする地域包括支援センター等をさらに充実します。障がい者がどんなことでも相談でき、総合的に支援する拠点を開設します。保育園の定員をさらに増やし、保育の質も一層レベルアップさせます。タブレットパソコンも活用し、ICTに強い子どもを育む学校教育を実現します。

優先政策

区民の皆様に豊かな暮らしを

期 間：未回答
数値目標：未回答
予 算：未回答

政策手段

大好評のゆいの森荒川に加え、新尾久図書館が令和3年2月にオープンします。令和3年1月に開設する日暮里活性化施設が中心となって、区内の産業をさらに元気に。親子で一日楽しめるよう、あらかわ遊園をリニューアルしています。宮前公園や町屋7丁目の大規模公園を整備、緑豊かな荒川区にします。コロナで厳しい状況にある町会や様々な団体活動をきめ細かく支援します。リサイクルなど、環境に優しい取り組みをさらに支援します。

課題を解決するための重要政策

共通質問

共通質問1
地震など防災、
地域防犯対策
について

防災対策は、災害危険度の高い区として引き続き優先度の高い課題である。不燃化特区制度により不燃領域率70%を目指して折り返してきたが、あと一步の対策が必要である。災害危険度の高い地域へ適用区域を拡大するなど、さらに強力に進めていく必要がある。なお、河川水や地下水を活用した永久水利施設の整備を進めているが、来年度には四峡小に8カ所目となる深井戸が完成する。

ソフト面では、昨年の台風19号の対応を教訓に、区内52カ所の避難所に平均7-8名の担当職員を決め、日頃から地元や施設との顔の見える関係を構築するとともに、その場所にあった具体的なマニュアルも整備し、訓練なども実施している。いざという時に動ける体制の整備をさらに進めていく。犯罪のない、安全で安心して暮らせる地域社会の実現は、荒川区民すべての願いである。これまでも区内3警察署や町会を始めとした市域の皆様と連携し、地域の皆様とともに地域の防犯対策に取り組んでいく。

共通質問2
高齢者福祉の充実
について

高齢者の皆様には、地域の一員として、様々な活動を通じてやりがいや生きがいをもち、心身ともに健康で充実した暮らしを送っていただきたいと考えています。そのためには、荒川区の強みである地域の絆を活かし、住民相互が支え合い、助け合うなど、豊かで希望に満ちた地域作りが必要です。高齢者の暮らしをきめ細かくサポートする地域包括支援センター等のさらなる充実を始め、高齢者の皆様が住み慣れた区内で安心して暮らしていけるよう高齢者対策を行ってまいります。

共通質問3
幼児、児童の
子育て支援の充実
について

子どもたちは未来社会の守護者であり、明日の荒川区を支える貴重な宝といえる。これまで、多様な子育て支援策を展開してきた。待機児童を解消するために国の特区制度を活用して公園内に保育園を整備したほか、神社の駐車場や信用金庫の空きスペースなど、工夫を凝らして保育園を設置してきた。その結果、平成16年11月に定員3076人であったものが、令和2年10月現在では6310人に大きく増加している。今後も保育園の定員をさらに増やし、保育の質も一層レベルアップさせていく。また、平成26年度に全国に先駆けて全小中学校に導入したタブレットパソコンは、コロナ禍においては家庭学習等で大いに効果を発揮している。今後もタブレットパソコンも活用し、ICTに強い子どもを育む学校教育を実現する。

共通質問4
魅力ある街づくり
について

魅力ある街づくりは、区のイメージアップはもとより区民の皆様の地域への愛着を強める意味でも大切な課題であると認識している。現在「あらかわ遊園」のリニューアル工事が行われており、令和4年春には完成する予定である。完成している観覧車ではイルミネーションの点灯などの取り組みも開始している。多くの方が訪れている「ゆいの森あらかわ」に加え、令和3年2月には新尾久図書館が都市公園内にオープンし、区民の憩いの場が新たに誕生する。令和3年1月に開設が予定されている「ふらっとにつぼり」（荒川区日暮里地域活性化施設）は、「地域の皆さんに愛され、地域コミュニティを更に醸成する場所」とであるとともに、「繊維街を訪れた人が楽しみに立ち寄れる場所」、「繊維街の魅力と相乗して地域を活性化する場所」という3つのコンセプトを基に、建設を進めており、日暮里地域の魅力アップに貢献できるものと考えている。その他にも宮前公園や町屋7丁目の大規模公園等、緑豊かな街づくりに取り組んでいくことで、荒川区の魅力を高めていきたい。